

# 令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立洛風中学校)

## 教育目標

仲間とともに

納得して学び直す、心を開いて遊び・語り合う、自信を取り戻す学習の実践

## 年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 安定した登校につながらない生徒もいたように感じるが、いかなる状態であっても「心を開いて」学校生活に向かうことができるような生徒との関り方や自信を取り戻す学びについて、生徒が感じている困りが年々多種多様であるだけに、より丁寧な見立て、そしてより細やかな手立ての工夫が求められていると考える。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 不登校の原因が多種多様であり、世の中もどんどん変化していく中で、心理的なケア、生徒の特性に対する支援等々、専門家の意見を有効活用するなど各種関係機関との連携による支援をより進めていくとよいと思われる。また、学習面においても学び直しを念頭に置き、なつかつ学びに向かう子どもたちの姿勢を育てるための、創意工夫を今後も継続していってほしい。生徒の内面に迫る理解をすることで、より生徒との信頼関係を深めながら、「自信を取り戻す学習の実践」を進めていってほしい。

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月中旬	学校運営協議会 理事
最終評価	2月下旬	学校運営協議会 理事

## (1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

### 重点目標

社会とのつながり・接続を意識できる教科教育の充実を図る

- ①一人一人の子どもが、自己の将来の生き方を見据え、「みんなと学ぶことが楽しい」「分かる喜びを実感できる」授業をめざす。
- ②一人一人の知的好奇心に支えられた基礎的な知識・技能の習得を目指す。
- ③各教科の学習において、「言語活動」を工夫することで、一人一人の考えの深まりを目指す。
- ④一人一人の生徒の特性や実態を理解し、一人一人に応じた課題設定をすることで生徒の学習に向かう意欲に刺激を与える。

### 具体的な取組

- ① 1) 授業の「めあて」や「ながれ」を明示することで、生徒一人一人に見通しを持たせ、安心して授業に参加できるように工夫をする。  
2) 「学習のしおり」と「指導と評価の一体化」を具体的な資料にまとめ、生徒や保護者への説明責任を果たす。  
3) 授業の振り返りや「学習確認プログラム」等の検証により、生徒一人ひとりにとってより分かりやすい授業の工夫をするとともに、個々の生徒の困りやつまづきに気づき、対応・支援を行う。
- ② 1) 知的好奇心や探究心を引き出す学習内容の工夫、小集団を活かし、学ぶ楽しさを実感できるような授業の展開を心がける。  
2) 特に伝統文化や環境に関する学習、キャリア教育等の学習において、生徒どうしが互いに意見を深め合ったり、学んだことを伝えたりする活動を多く取り入れることで、自らの将来への見通しを持たせる。  
3) 一人ひとりの生徒の実態や興味関心に応じた家庭学習の課題提示や習慣化を図る。
- ③ 1) すべての教科や活動において、主体的・対話的な学習の展開を心がけ、それぞれの生徒の実態や状態に合わせながら、「自分の言葉で語る」ことができる場面を設ける。  
2) 子どもの発達段階と特性に応じて、ICT機器等を効果的に活用した学習を充実させる。  
3) 「自分の言葉で語る」ための方法を工夫し、一人ひとりの生徒の「自己指導の力」を高めることができる場を意識的に設定する。
- ④ 1) 一人一人の生徒の特性を理解し、特性や教科の特質に応じたきめ細やかな支援に基づく学力向上に向けた取り組みを進める。  
2) 教科会や教職員間で、授業の進め方等の工夫を共有できる機会を増やすことで、授業改善を図り、一人ひとりの生徒の実態や困りの理解に努めるとともに、持続性のある対応を共有する。  
3) 生徒一人ひとりが「分からぬ」を素直に表現できる雰囲気・環境作りを心掛け、自己決定を大切にする態度の育成を図るとともに、それぞれの生徒の自己決定を尊重する。

### (取組結果を検証する) 各種指標

\*学習確認プログラムの分析結果

\*授業時における話す態度や聞く態度の変容

\*生徒アンケート

\*保護者アンケート

\*授業参観や保護者懇談の際の保護者の意見。

### 中間評価

#### 各種指標結果

6月に実施した教育相談アンケートでは、「勉強の仕方が分からぬ」が「はい」「少し」を合わせて43%「授業の内容が分からぬ」は「はい」「少し」を合わせて43%になった。

9月に実施したクラスマネジメントシートにおいては、「先生と気軽に話すことができる」「先生はほめてくれる」「先生の説明は分かりやすい」いずれも9割を超える肯定的な回答である。

10月に実施した生徒アンケートの「先生たちはあなたの話をよく聞いて、理解しようとしてくれていると思いますか。」では回答者全員が肯定的な回答をし、「学校の仲間たちはお互いを大切にできていると思いますか。」では91%の回答であった。保護者アンケートの「保護者にとって、学校は子

どものことについて相談しやすい雰囲気であると思う」は100%、「子どもは学校の授業を大切にしていると思う」は91%の肯定的な回答であった。しかし、「子どもは授業を理解し、基本的な学力が身についていると思う」では57%である。保護者の意見の中には、「勉強の量の少なさの補い方」「進学のことが気がかり」といった意見もあった。

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<p>一人一人の生徒の力をしっかりと見据え、次につながるようにと常々指導を続けているが、復習を要する内容も個々の習熟度の違いが大きいこともあります。授業の難しさを感じる。毎回の授業での観察によって少しでも早い段階でつまずきや困りへの気付きや手立ての工夫を図りたいと考えている。まずは登校の安定をとを考えるが、授業時の自信が登校へとつながることもあるため、声掛けや支援方法の工夫を今後も求められる。学力の回復や定着には家庭での復習（家庭学習の習慣）が必要になってくるが、まずは意欲的に学びたいという気持ちが起こるように日々の授業や取り組みを見直し、生徒の現状や段階をより的確に見極め、指導へとつなげていくことが肝要だと考える。</p>
学校関係者評価	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<p>全ての教科で複数教員による授業を行っているが、生徒の困りへの適切な支援や声掛けのタイミングが生徒のつまずきを解決するものになるようになる。授業内で気づいた一人一人の生徒の苦手や困りを教科内だけにとどまらず、教職員間で共通理解することで、より効果的な指導内容になるように研鑽する。</p>
学校関係者評価	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>*授業時における話す態度や聞く態度の変容</li><li>*生徒アンケート</li><li>*保護者アンケート</li><li>*授業参観や個人懇談の際の保護者の意見。</li></ul>

## 最終評価

<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
<p>生徒アンケートにおける「先生たちは授業を分かりやすくするように工夫してくれていると思うか」という問い合わせに対する回答は全員が肯定的な評価をしている。しかし、「とてもそう思う」という評価が前期のアンケートに比べると、4パーセント減少しているが、「あまり思わない」もなくなり、そのことは、生徒のより確かな学びに向けての意欲の高まりでもあると思われる。授業時の生徒の様子からも、感じられることである。</p>
<p>保護者アンケートにおける「子どもは授業を理解し、基礎基本的な学力が身についていると思う」という問い合わせに対する肯定的な評価は6割で、前期よりも8%増加している。「子どもに合った授業の進め方が工夫されていると思う」に対する評価が前期よりも肯定的な評価が若干増えており、基礎基本的な学力の定着に関しては不安を感じつつも評価されていていると考えられる。</p>

自己評価	<b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b>
	すべての教科において、主体的・対話的な学習の展開を心がけ、教材の工夫などに力を入れてきたことの成果とも思われる。しかし、定着テスト等においてなかなか成果が上がらないと感じることなどから、学力としての個々の満足度に不安が残るのかもしれない。個々の実態や興味関心に応じた家庭学習の習慣化をより工夫することで、子どもが安心して学びに向かう姿勢を高めしていくことができると考える。個々の生徒の実態を見ていると、年度当初に比べより自己の苦手を克服する姿勢やや得意なところをさらに伸ばすことを意識した学びへの姿勢が育っているようを感じている。一人一人の生徒の特性や実態などをしっかり見極めるためにも、より細やかな対応を心がけることが求められると感じる。
学校関係者評価	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	生徒一人の得意不得意を的確に見極め、得意分野を伸ばすことを試みる。 主体的・対話的な学びを推し進める。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	不登校を経験した生徒の困りの多くが、学びでのつまずきによる自信の喪失である。学校教育目標にもあるように、自信を取り戻すための学びへの姿勢を身につけることが優先される。学ぶことへの興味を喚起する、教材の工夫や授業展開をお願いしたい。「言語活動」を中心に一人一人にあった自己表現の場や方法の設定は、日頃の積み重ねによって効果が出てくるものである。今後もすべての教科において、「言語活動」を意識した活動の場を大切にされることを望む。

## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

<b>重点目標</b>	自信を取り戻す学習の実践
①	互いに認め、認められる集団（仲間）づくりを展開できる取組の充実
②	自己肯定感を取り戻し、主体的に学校生活を送ることのできるよりよい学習環境づくり
③	自らの将来を思い描くことができるような取組を工夫する。
<b>具体的な取組</b>	
①①)	生徒一人ひとりの実態や課題の把握・理解に努め、学校という場（社会）、集団における心の安定を図る取り組みの実践。
2)	すべての教職員が生徒の人間関係づくりに携わり、適度な距離感で接することで生徒自らが「心の落ち着き」「居場所」を感じることのできる空間を作る。
3)	ヒューマン・タイム（道徳を含む）や風夢風夢（総合的な学習）等での主体的な取組の工夫を図ることで、生徒の「心にしみる体験」をさせ、一人一人の自信に結び付くように工夫する。
②①)	縦割りの関係（ウイング）を活かし、仲間を意識した活動を意図的に取り入れることで、お互いをモデルにして成長できる場とし、一人ひとりが自己有用感を高めることができるような場の設定する。
2)	毎日のショートヒューマン・タイムの中で、「係活動」等を定例で行う時間を確保することで、自らが学校の一員としての自己存在感を感じる場を設定する。
3)	人権に関する学習を基盤とし、命の大切さを考えたり、豊かな人間関係を築いたりする力を養う学習を大切にする。
③①)	様々な伝統文化体験や地域周辺の人たちとの出会いの場を通して、「身に染みる体験」を通して、豊かな感性や情操を育む。
2)	卒業生や様々な方々の体験を聞いたりする取組を設けることで、自らの将来を思い描いたり、

夢に向かってなりたい自分を見つめることのできる機会とする。

3) 自分自身の良さや可能性を知り、自らの生活や人生の豊かさを他者との関わりの中で追求することができるような機会を多く設ける。

(取組結果を検証する) 各種指標

\*各取組における振り返りシートへの記述内容

\*生徒アンケートや保護者アンケート

## 中間評価

### 各種指標結果

生徒アンケート「あなたは楽しく学校に通うことができていますか」は82%「学校の行事や取組は充実していると思いますか」は91%の肯定的な回答であった。

保護者アンケート「子どもは楽しく学校に通っている」が72%「学校行事は子どもの力を伸ばすために役に立っていると思う」は100%の肯定的な回答であった。

自己評価	分析 (成果と課題)
	ヒューマンタイムや風夢風夢（総合的な学習）における取組は、生徒の登校にも効果があったように感じる。
	分析を踏まえた取組の改善
	自己表現やコミュニケーションの苦手な生徒も多く。グループの人数を取組や生徒の実態を見極めながら、集団での活動を取り入れるとともに、いろいろな場面での対応などのスキルを身につけることで自信回復や自己肯定感を高める取組としていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	*各取組における振り返りシートへの記述内容
	*生徒アンケートや保護者アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	体験活動は自分の興味関心への気付きと発見、さらには自己有用感を高める良い機会になる。例年と取組であっても、毎年生徒の様子や付けるべく力が若干異なるため、内容もそれにあわせて見直していく必要がある。取組がより効果を得るためにも、生徒一人一人が自己決定する場面を多く取り入れ、自己成就感を高めるものとなるように心がけていってほしい。

## 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

「学校行事は子どもの力を伸ばすために役に立っていると思う」という保護者アンケートでは、全員が肯定的な評価をしている。生徒アンケートにおいてはコロナによる行事の削減により肯定的な評価が減少しているが、概ね学校行事や取り組みは充実していると感じている。

生徒アンケートにおける「学校の仲間を大切にできていると思うか」という問い合わせに対しても、約8割が肯定的な評価をしている。

「楽しく学校に通うことができている」と感じている生徒の割合が増加しており、「子どもが楽しく学校に通っている」と感じている保護者の割合が13%も増えている。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	様々な体験を通して、心にしみる豊かな感情や情緒を育む取り組みを心がけた。また、子どもたちが主体的に取り組み、達成感や満足感をより多く感じることができるように心がけた。少し

価 値	ではあるが学校行事も行うことができ、そのことが、一定の評価を得ていると考える。
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>他との関わりの中でつまずきを経験してきている生徒が多いが、安心しながら落ち着いて取り組む環境を整えることで、子どもたちが持っている好奇心や探求心を刺激することができる。いろいろ取り組みを経験する中で、自分の思いを表現しそれを受け止めてもらう経験を重ねたり、相手の意見に聴く経験をすることで、自己肯定感を高めることができたと考える。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>一度傷ついた心が平穏を取り戻すには、周囲の理解や「仲間」とつながることが有効的である。仲間を意識した取り組みを意図的に取入れ、子どもの好奇心や探求心を刺激することで、平穏な心を取り戻しつつ豊かな心を育んでいってほしい。</p> <p>子どもたちの困りは多種多様であり、その困りを安心して自己開示できる環境づくりを今後も進めていってほしい。</p>

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p>	<p>心身ともに健康な体をつくる</p> <p>① 基本的な生活習慣を身につけるとともに、自らの体の状態を知り、それぞれに合ったより健康的な体と心を保てるように調整する方法を知る。</p> <p>② 心と体を一体としてとらえた指導を行うことで、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。</p> <p>③ 安全教育の充実を図る。</p>
	<p>①①) 毎日の健康観察を通して、心と体の状態を生徒自身がコントロールできる力を養うとともに、より良い自らの生活が社会貢献につながる心の形成につながることを意識させる。</p> <p>2) 「保健だより」や「健康月間」「安全教室」等の取り組みを活用し、健康に関する知識を深めたり、健康や安全に留意したりして、食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活習慣を身につける。</p> <p>3) 調和のとれた生活習慣を身につけさせるために、個別の対応をしたり、家庭と連携した取り組みを行う。</p> <p>②①) 体を動かすことが、情緒面や知的な発達を促し、集団生活や身体表現等を通じてコミュニケーション能力を育むことを踏まえ、明るく豊かな生活を育む態度を育てる。</p> <p>2) 生徒がけがや病気の原因、予防を正しく理解し、自分自身の健康を保持・増進しようとする意識と態度を育てるために、保健教育の充実を図る</p> <p>3) 和やかな雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちを育てる等、食に関する指導の推進を図る。</p> <p>③①) 安全に関する学習や集団下校等を通して、生徒自らが学校や登下校時、地域において危機を予測し、適切な行動ができるような力を育成する。</p> <p>2) 災害発生時の避難方法等を確認するとともに、地域の一員としての意識や自覚を育む。</p> <p>3) 交通事故の加害者にも被害者にもならないように、交通ルールを遵守の徹底に向けた指導を行う。</p>
	<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察シートの記述</li> </ul>

- ・保健体育授業や昼食時・休憩時間等の変容
- ・避難訓練や安全教室などにおけるふりかえりシートの記述内容
- ・生徒アンケート、保護者アンケート

## 中間評価

### 各種指標結果

個々の課題や体力・体調もあるが、全体としては登校率が低い。  
睡眠不足や頭痛・腹痛を訴える生徒が多い。  
食事が不規則であったり、極端に少なかったり、偏りがある生徒がいる。教育相談アンケートでは、「食欲がなく、1日3食が食べられない」では「はい」「少し」をあわせて52%、「朝起きにくくボーッとしている」では「はい」「少し」をあわせて82%の回答になっている。また、「何をするにも面倒くさいと思う」では、「はい」「少し」あわせて69%の回答になっている。  
体力不足や体調不良などで体育の授業への参加が少ない時がある。

自己評価	分析（成果と課題）
	食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活習慣を身につけさせるために家庭との連携が十分ではなかったと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善
	身体測定や健康診断などを機に、保護者との連携を密にできる機会の活用。 体育保健係の生徒の活動の場としても啓発活動をする。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察シートの記述</li> <li>・保健体育授業や昼食時の変容</li> <li>・避難訓練や安全教室などにおけるふりかえりシートの記述</li> <li>・生徒アンケート、保護者アンケート</li> </ul>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>生徒のストレス要因は多岐に渡っているが、睡眠障害や疾患などは医療機関による治療も必要な場合がある。家庭との連携を密に、生徒の様子や困りの質について全体で正しく共通理解をすることが、改善に繋がる。「ほけんだより」を活用した毎月の取組は、生徒自らが自分の健康を考える機会になるため、今後も続けていくことが望まれる。</p>

## 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

「あなたは楽しく学校に通うことができていると思うか」という問い合わせに対し、前期よりも若干肯定的な評価が増えている。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <p>大半の転入生徒は学校にかなり慣れ、自分の思いを受け止めてくれる環境であると認識できてきている。自己の内面との付き合い方やストレスの回避方法を身に着けることができつつあると考える。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>体育保健係の活動など生徒の活動で健康的な過ごし方の啓発をしたり、歩き方や姿勢に関する外部からの指導者による専門的な指導を受けたりすることで、改めて自分自身の健康を意識した生活の重要性の気づく機会を設けた。規則正しい生活習慣や健康的な生活を心がけることの多方</p>

	面への有効性への主体的な気づきを大切にした。
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>基本的な生活習慣の確立には保護者の協力が欠かせないが、子ども自身の内面への個や集団の刺激が効果的である。毎日の健康観察を通しての的確な分析と地道な働きかけと、健康診断など結果を踏まえた家族への協力要請、生徒の活動を通しての集団への働きかけと、多方面からの丁寧な取組を今後も続けてほしい。</p> <p>SNS やゲーム等を長時間利用することによる生活習慣の乱れは非常に気になるが、子どもが安心できる環境を保ち、健康的な生活の必要性を働きかけ続けることで、生活習慣の改善につながるとよいと考える</p>

#### (4) 学校独自の取組

<b>重点目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンタイム（道徳・特活）や風夢風夢（総合的な学習の時間）の方向性・内容の確認</li> <li>・不登校支援センターや前籍校との連携の充実</li> <li>・教育相談体制の充実</li> </ul>
<b>具体的な取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「創夢（総務）委員会」における「ヒューマンタイム」や「風夢風夢」、学校行事の内容の確認と調整をする。 (カリキュラム・マネジメント)</li> <li>・転入学生受け入れに係る連携の充実を図る。 (前籍校との連携の充実におけるスムーズな転入学)</li> <li>・「なぎの時間」や保護者のスクールカウンセラーとの面談や教育相談体制の充実を図る。</li> <li>・教育相談期間だけでなく普段からの生徒との細やかな対話を心掛ける</li> <li>・SC・SSW の専門性を活かした生徒指導体制</li> </ul>
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組、学期ごとのふりかえり</li> <li>・教育相談アンケートやクラスマネジメントシート等の活用</li> </ul>

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b>
クラスマネジメントシート「クラスのやすらぎ」およそ80%。「友だちとのつながり」およそ40%
<b>自己評価</b>
<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>集団での活動を苦手とする生徒にとって、コミュニケーションや自己表現をする活動に対し、抵抗感を強く抱くところもあった。生徒の困りの実態の見極めときめ細かな工夫が必要を感じた。SCによるコンサルテーションは効果的であった。今後はSSWの活用も含め、家庭へのサポート体制をどのようにしていくかを考える必要がある。</p>
<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>個々の生徒の実態に合わせ、細やかな目標設定をすることで、生徒の達成感を感じさせ、自信へとつなげていく。色々な場面での生徒との関わりを行うと同時に、組織的系統的に行うことを行なっていく。</p>
<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組、学期ごとのふりかえり</li> <li>・教育相談アンケートやクラスマネジメントシート等の活用</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>人前での発表は苦手とする生徒にとっては厳しい取り組みであったと感じる。グループ内で協力し、サポートしながら発表を行い、苦手克服を狙ったと思われるが、こちらの狙ったような結果にならなかつたものと思われる。体験的な活動や少人数での発表することを多く取り入れることで、子ども自身が興味・関心を見出すことや克服へつなげるためにも今後の工夫が行われることを望む。</p>

#### 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p>「学校行事は子どもの力を伸ばすために役に立っている」と強く感じている保護者が4割を超え、「校舎や教室、掲示物など子どもたちにとっての環境が整っていると思う」と強く感じている保護者も56.2%いる。「学校の行事や取り組みは充実していると思うか」という生徒アンケートにおいても強く肯定的ご回答をしている生徒が35%であり、コロナの影響が見て取れる。</p>
自己評価	<p><b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b></p> <p>伝統的に受け継がれている行事等は生徒にとって、自己有用感や自己肯定感を高めることにつながっていると考える。教育相談体制の充実や日常から相談しやすい教職員との関係づくりから子ども一人一人の思いを大切にしようとする取り組みや課題を解決していく取り組みが効果的であると考える。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>「先生たちはあなたの話をよく聞いて、理解しようとしてくれているか」とう問い合わせに対し、9割以上が肯定的な評価をしているが、強く感じている生徒は前期より5%増えて49%の生徒が感じている。一方理解してくれないという生徒も出てきており、生徒の本音が聞ける環境づくりを心がけるためにも、生徒の実態を把握しての取り組み内容の検討を図りたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>安心できる環境、生徒が自分の居場所を感じることができる環境は非常に大切である。今後も、生徒一人一人の困りや特性を教職員全員で共通理解しながら、より正確な分析と取り組みを試みるとともに、生徒が「面白い」「楽しい」「もっと知りたい」「もっとやりたい」と感じるような取組を今後も取り入れていってほしい。</p>

#### (5) 教職員の働き方改革について

	<p><b>重点目標</b></p> <p>生徒と向き合う時間を十分に確保しつつも、教職員一人一人が勤務時間を意識した勤務内容や方法を工夫する。</p>
	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風夢風夢（総合的な学習）等において、組織を活かした取組の実施</li> <li>・各分掌内の仕事内容の整理・分担の明確化及び連携体制の充実</li> <li>・文書の整理</li> </ul>
	<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤システムを活用（特に退校時刻）</li> <li>・public等の情報（データ・記録）の整理状況の確認</li> </ul>

- ・職員室内、各教職員の机上の整理状況

## 中間評価

自己評価	<b>各種指標結果</b>
	ほとんどの教職員が「一番困っている生徒の立場に立った指導・対応ができている」と感じている。また『「いつ・どこで・だれが・どの生徒と・何を・何のために」をお互い伝えあうことを意識して実行している』と多くの教職員が感じている。
	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>『「いつ・どこで・だれが・どの生徒と・何を・何のために」をお互い伝えあうことを意識し、実行する』ことで、生徒の共通理解がより深まった。ただ、全員一致とはなっていないので、お互いに伝え合う意識をさらに高めていくのと同時に深まった理解を実際に生徒にどう生かしていくかを繰り返し意見交流することが必要と思われる。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>生徒理解委員会だけでなく、学力向上委員会などをうまく生かして、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れながら、組織としてより効果的な教育ができるよう研究を進める。また、取組内容のデータ化を図り、整理し、残すことで、現状把握と今後の研究に生かしていく。</p>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務時間（退校時刻）</li> <li>・情報の整理状況</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>一人一人の困りに丁寧に取り組むことで、特に教科の準備などに時間を要していると思われる。ＩＣＴの活用など教育効果が考えられるものはうまく活用して、勤務時間の縮小を図られることを勧める。生徒の情報共有は必要不可欠なことで、日常的に共通理解の場を設けることの習慣化・継続をされることを願う。</p>

## 最終評価

自己評価	<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b>
	<b>勤務時間外勤務の実態</b>
	<b>カリキュラム・マネジメントの成果</b>
	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>時間外勤務時間の平均時間は減少傾向にある。ただし、教科や分掌によってまだまだ改善が見られない部分もあり、取り組みが必要である。</p> <p>総合的な学習の時間の取り組みが教職員全体での取組とし、学年別に系統立てた取り組みに対し一定の成果が見られた。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>一人一人の課題に対応した教材の準備は非常に時間がかかるものがある。より効率よくかつ生徒に効果的な教材の準備ができるように、研修を深めていく。また、教科横断的な取り組みの活動をより多く取り入れる中での負担軽減の工夫を試みたい。</p> <p>それぞれの取り組みを整理した形で残すことで、次年度、これから取り組みに生かしていくとともに、必ず生徒の実態をしっかりと見極めた取り組みの継承と改革をしていきたいと考える。</p>

## 学校関係者による意見・支援策

子どもの内に秘めたやりたい気持ちを大切育てるような授業改善を今後も続けていってほしい。学び直しをし、自信を取り戻す学習を推し進めるため、ICTをはじめ、より効果的な教材の取入れを進め、生徒の困りを解消することにつなげていくことができると思われる。また、教職員の働き方改革に向けての取り組みも支援できればと考える。今後も校内、校外での研修を取り入れ、教職員自身の資質・能力の向上を目指してほしい。